

令和元年5月27日現在

機関番号：11101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13252

研究課題名(和文) 授業における英語多読プログラム開発とその評価に関する研究

研究課題名(英文) A study on the development of Extensive Reading program in the classroom and its assessment

研究代表者

小野寺 進 (Onodera, Susumu)

弘前大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：30204267

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：(1)英語多読実践プログラムの開発：教室内で多読授業を実施する際に可能な方法として1)統一教材を用いた多読授業と、2)学習者が自分で好きな教材を選ぶ多読授業の2通りを提案し、それぞれのメリットとデメリットを明らかにした上で、学習者のレベルに応じてGR(グレイデッド・リーダーズ)をどのように選択すべきであるかを実験の結果を基に明示した。

(2)英語多読の評価方法：英語多読が学生の主体的・自律的活動であり、英語多読力とリーディング・スピードには相関関係があることを基に、試験を実施せずに多読力を判定・評価する方法として、多読用のループリック評価法を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究は、大学などの高等教育機関で、通常の授業で英語多読を実施可能とするプログラムであり、しかも単位として英語リーディング能力を評価するために、従来の試験による評価法ではなく、ループリック評価法による簡便なものとし、多読本来の特性を生かすところに学術的意義があり、また国内外にて汎用できるモデルとして構築されているところに社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：(1)The development of Extensive Reading Program: There are two approaches to ER in the classroom, Select Your Own Text and Reading the Same Title. After making clear of the merits and demerits on both approaches, so I proposed ways to practice ER with college students on a regular-class basis.

(2)A model of Extensive Reading assessment: Being autonomous in nature, it is difficult to assess learners' ER in a credited class without resorting to a comprehension style end-of-term examination at a higher-education institution. So I proposed an alternative method of ER assessment based on a scoring rubric.

研究分野：イギリス文学、英語教育

キーワード：英語多読法 英語リーディング ループリック評価法 アクティブ・ラーニング

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2020年のオリンピック開催を控え、日本人学生の英語力向上は必須である。英語多読は楽しみながら英語力を向上できる方法であり、これを大学などの高等教育機関で授業として実現できることは、英語が苦手な学生の英語リーディング能力を高めるだけでなく、大量の英語を処理する能力を培い、英語コミュニケーションを潤滑に行うための基盤を築く。そのために授業として実施できるプログラム開発とその評価が必要で、その汎用性から日本以外の大学でも実施可能なユニバーサルなものとなり得ると考えた。

### 2. 研究の目的

英語運用能力を高めるのに効果的な英語多読法は、これまで自発的に個人ごとに実施するものとして一定の成果を収めてきた。その一方で、授業で行う多読法は、従来のやり方を教室に移したものに過ぎず、しかもグレード別の評価付けを行う授業として単位を出せるものとはなっていない。そこで次の2つを目的とした。

- 1 統一教材を用いて授業として実現するための英語多読実践プログラムの開発。
- 2 通常の授業の単位として認定できる評価基準の構築と確立。

### 3. 研究の方法

多読実践プログラムの開発とその評価を確立するため、学生を被験者とする実験的授業の実施とアンケート調査を2期に分けて実施した。実験授業を実施するに当たっては、研究協力者であるハワイ大学のリチャード・デイ博士と打合せし、実施の妥当性を確認した。

- (1) 第1期(平成28年度10月～12月)：事前に自宅で統一教材を読んできて、90分の授業に臨むという実験とアンケート調査を10回にわたり実施。
- (2) 第2期(平成29年4月～7月)：教室にて、90分という通常の授業時間内で統一教材を読む授業とアンケート調査を10回にわたり実施。

授業の結果とアンケート調査を基に、適正な実施プログラムの開発と評価方法の確立を目標とした。

### 4. 研究成果

#### (1) 英語多読実践プログラムの開発

教室内で多読授業を実施する際に可能な方法として1)統一教材を用いた多読授業と2)学習者が自分で好きな教材を選ぶ多読授業の2通りを提案し、それぞれのメリットとデメリットを明らかにした上で、教員主体で実施する場合は1)を、また学習者主体で実施する場合は2)を選択すると共に、学習者のレベルに応じてGR(グレイデッド・リーダーズ)をどのように選択すべきであるかを実験の結果を基に明示した。具体的には初級クラスではLevel 1からLevel 3まで、中級クラスではLevel 2からLevel 4まで、また上級クラスではLevel 4からLevel 6までで実施するのが適正である。この成果としてThe Fourth World Congress on Extensive Reading(2017年8月5日、Toyo Gakuen University)にて研究発表し、また論文として2018: *Extensive Reading World Congress Proceedings* に掲載された。

#### (2) 英語多読の評価方法

英語多読が学生の主体的・自律的活動であり、英語多読力とリーディング・スピードには相関関係があることを基に、試験を実施せずに多読力を判定・評価する方法として、多読用のルーブリック評価法を以下の表1の通りに作成した。この成果として日本多読学会の2018年会(2018年8月5日、東京工業高等専門学校)にて研究発表した。

表1. Rubrics Assessment (A model)

Elementary level (Target TOEIC score 400-500): OB Stage 2 & 3; CER Level 2

総 word 数 11000 以下 (平均 120wps)

理解度	Headwords 700	Headwords 800	Headwords 1000
50%以上	OB Stage 2	CER Level 2	OB Stage 3
75%以上	OB Stage 2	CER Level 2	OB Stage 3
90%以上	OB Stage 2	CER Level 2	OB Stage 3

#### 15 回リーディング

Grade F	C	B	A	S
OB Stage 3	OB Stage 3	OB Stage 3	OB Stage 3	OB Stage 3
2 回(50%以上)	4 回(75%以上)	5 回(75%以上)	10 回(75%以上)	15 回(75%以上)
CER Level 2	1 回(50%以上)	CER Level 2	CER Level 2	

1回(50%以上)	CER Level 2 2回(90%以上) 3回(75%以上) OB Stage 2 5回(75%以上)	5回(75%以上) OB Stage 2 5回(75%以上)	5回(75%以上)	
CER Level 2 2回(50%以上)	OB Stage 3 4回(75%以上) 1回(50%以上) CER Level 2 5回(75%以上) OB Stage 2 5回(90%以上)	OB Stage 3 4回(75%以上) CER Level 2 6回(75%以上) OB Stage 2 5回(90%以上)	OB Stage 3 10回(75%以上) CER Level 2 3回(75%以上) OB Stage 2 2回(75%以上)	OB Stage 3 10回(75%以上) CER Level 2 5回(90%以上)
OB Stage 2 1回(50%以上)	OB Stage 3 3回(75%以上) 2回(50%以上) CER Level 2 3回(90%以上) 2回(75%以上) OB Stage 2 5回(90%以上)		OB Stage 3 8回(75%以上) CER Level 2 4回(90%以上) OB Stage 2 3回(90%以上)	OB Stage 3 10回(75%以上) CER Level 2 3回(90%以上) OB Stage 2 2回(90%以上)

Intermediate level (Target TOEIC score 500-750): OB Stage 3 & 4; CER Level 3

総 word 数 12000 以下 (平均 130wps)

理解度	Headwords 1000	Headwords 1300	Headwords 1400
50%以上	OB Stage 3	CER Level 3	OB Stage 4
75%以上	OB Stage 3	CER Level 3	OB Stage 4
90%以上	OB Stage 3	CER Level 3	OB Stage 4

15 回リーディング

Grade F	C	B	A	S
OB Stage 4 2回(50%以上)	OB Stage 4 3回(75%以上) 1回(50%以上) CER Level 3 4回(75%以上) OB Stage 3 7回(75%以上)	OB Stage 4 4回(75%以上) CER Level 3 4回(75%以上) OB Stage 3 7回(75%以上)	OB Stage 4 10回(75%以上) or CER Level 3 10回(75%以上) OB Stage 3 5回(75%以上)	OB Stage 4 15回(75%以上) or CER Level 3 15回(75%以上)
CER Level 3 2回(50%以上)	OB Stage 4 3回(75%以上) CER Level 3 4回(75%以上) 1回(50%以上) OB Stage 3	OB Stage 4 3回(75%以上) CER Level 3 4回(75%以上) OB Stage 3 2回(90%以上)	OB Stage 4 5回(75%以上) CER Level 3 5回(75%以上) OB Stage 3 5回(75%以上)	OB Stage 4 8回(75%以上) CER Level 3 7回(75%以上)

	7回(75%以上)	6回(75%以上)		
OB Stage 3 1回(50%以上)	OB Stage 4 2回(75%以上) CER Level 3 4回(75%以上) OB Stage 3 9回(75%以上)	OB Stage 4 3回(75%以上) CER Level 3 3回(75%以上) OB Stage 3 4回(90%以上) 5回(75%以上)	OB Stage 4 4回(75%以上) CER Level 3 4回(75%以上) OB Stage 3 2回(90%以上) 5回(75%以上)	OB Stage 4 7回(75%以上) CER Level 3 8回(75%以上)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1件)

1. Susumu Onodera, 'How to Practice Extensive Reading in the College Classroom' *2018: Extensive Reading World Congress Proceedings*, 139-144. 2018. (査読有)

〔学会発表〕(計 2件)

1. 小野寺進、「高等教育機関での多読授業の評価方法」2018年度日本多読学会年会、2018年。
2. Susumu Onodera, 'How to Practice Extensive Reading in the College Classroom' *The Fourth World Congress on Extensive Reading*, 2017年。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：デイ リチャード

ローマ字氏名：Richard Day

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。